

第5回 校長会議あいさつ

R7.7.16 稲垣

例年になく早い梅雨明けとなり、猛暑に見舞われています。運動部活の市内大会も熱中症が心配されましたが、各競技部の先生方による様々な配慮により、大過なく終えることができました。野球やソフトなどの屋外競技は、熱中症指数の上がる時間帯を避けて実施しました。バスケやバレーは総合体育館の改修工事のため、一色中学校を会場としましたが、大型の冷風機を入れたり、試合間のクールダウンには、エアコンの利いた部屋を確保しました。また、テニスの女子は、新設のきららテニスコートを利用することができました。

本日は、2点について報告いたします。

1点目は、信頼される学校づくりについてです。昨今、学校経営は難しさを増しています。学校教育に関わる報道の中で、ネガティブな情報が頻繁に取り上げられ、保護者や地域の方たちは不安を抱さがちです。現代社会における学校は、信頼感を維持するために碎身の努力を要します。

私たちは、本当に子どものことを最優先に考えているかを、常に問い続けている必要があります。特にピンチの時には、誰しも、つい自分や組織を守ろうとしてしまうこともあります。しかし保身を疑われることは、信頼感を低下させてしまいます。保護者や地域の方たちの心情をしっかりと受け止めた上で、子どものことを第一に考えた方針を丁寧に伝えていくようにしましょう。

2点目は、県立高校の今後の動向についてです。県教育委員会では、先月初めに、第1回県立高等学校再編将来構想具体化検討委員会が開催されました。そこでは、愛知県の中学校卒業生数は、2025年から、2038年までに、約19000人の減少が見込まれ、また、通信制高校進学者の増加傾向等も勘案すると、現状の学校数では、全県的に学校規模が小規模化して、1校当たりの生徒数や教員数が減少し、教育活動に支障を来す恐れがある。今後、地域ごとの中学校卒業生徒数の推移や進路動向を総合的に勘案し、統合等による再編を進めていく必要があると確認されました。

高等学校の適正配置を考えた場合、地域ごとの通学範囲の中に、生徒たちの学力や適性に応じた高校が偏りなくあることが理想です。しかし現実には、東三河山間部や離島のように、いわゆる進学校への自宅からの通学は難しく、高校入学時から下宿生活を余儀なくされている実態もあります。今後このような状況が拡大しないように、通学の負担が生徒たちの進路を狭めることなく、本市においても全ての生徒が、ひとりひとりの適性や能力に応じた進路選択ができるように、市内でのバランスを考慮した配置を県教委に要望していきたいと考えています。